科目区分　学部：特別支援教育教員養成課程（前期）

授業科目　言語・コミュニケーション発達論

特別支援教育講座　花熊　曉
受講者数　15 名

１．授業の目的

本授業は、特別支援教育教員養成課程３回生を対象に、ヒトのコミュニケーションの特質と言語の働きや言語・コミュニケーションの発達過程に関する基礎知識の習得と、その知識に基づいて言語・コミュニケーションに障害のある子どもの特性の理解、具体的な支援方法を考える力の習得を目標としている。

２．授業の方法

本授業のシラバスには５つの到達目標を挙げているが、今年度の授業では、到達目標(2)「自己の日常経験に基づいて授業内容を理解する」と到達目標(5)「言語・コミュニケーションの障害のレベルや領域とその支援について説明できる」の２つの目標に重点を置き、グループ討議を多く取り入れて、受講生が、発達に障害のある子どもと接した自己の日常経験と照らし合わせながらアクティブに学べるような授業方法を取り入れた。

なお、本授業は聴覚障害学生１名が受講しているため、教員からの説明には全てパワーポイントを用い、ボランティア学生によるノートテークとは別に、エピソード等については情報保障のための補足資料を作成し、聴覚障害学生に直接に手渡すようにした。

３．授業の内容

全 15 回の授業の中で、言語の発達に関する討議４回と言語・コミュニケーションの発達に障害がある子ども（主に自閉スペクトラム児）の行動特徴の理解に関する討議５回の計９回のグループ討議の時間を設け、討議結果を発表させた後、各討議テーマが言語・コミュニケーションの発達において、どのような意味を持つのかを教員が説明するようにした。また、発達に障害のある子どもに関するグループ討議では、特性や行動の理解にとどまらず、具体的な支援方法や教材開発についても検討するようにした。

４．受講者について

特別支援教育課程の３回生 12 名と４回生１名、学校教育教員養成課程の４回生１名、院生１名の計 15 名である。

５．授業評価アンケートとその結果

授業評価は、ア）授業の内容について：2 項目、イ）グループ討議について：2 項目、ウ）教員の説明のしかたとプレゼンテーションについて：1 項目、エ）授業時間外学習について：1 項目、オ）授業の感想と改善意見（自由記述）、の計 7 項目からなるアンケートを実施した。受講者 15 名中 14 名から回答を得たが、その結果は以下の通りである。

（ア）授業内容について

項目１「本授業の内容に興味・関心が持てたか」については、“非常に”と答えた者６名、“かなり”と答えた者８名であった。

項目２「本授業で学んだ内容は、今後、障害のある子どもを指導・支援する時に役立つものだったか」については、“非常に”10 名、“かなり”4 名であった。

（イ）グループ討議について

項目３「討議の内容」と項目４「討議の回数」については 14 名全員が“適切”と回答し、項目８の自由記述欄にも、「能動的に学ぶことが出来て、やりがいのある楽しい授業だった」、「討議課題は難しかったが、自分で考えることができて良かった」、「他者の意見を色々聞けたのが良かった」等の感想が多く書かれていた。

（ウ）教員の説明のしかたとプレゼンについて

項目５「教員の説明のしかたとプレゼンテーション」については、“非常に適切”が９名、“かなり”が４名、“どちらとも言えない”が１名であった。“どちらとも言えない”と回答した 1 名の自由記述欄には、「言語の基礎となる脳の構造のところが今一つ理解が進まず、テストでも苦労した。立体的に脳が見られるようなアプリを使って

提示してみてはどうか」との建設的な意見が記されており、今後の授業改善にとって非常に参考になる意見であった。

６．授業時間外学習について

昨年度の本授業（受講者数 17 名）の授業時間外学習に関する授業評価アンケートでは、「授業時間外学習をどの程度したか」の問いに対して、“時々した”と答えた者が 7 名、“あまりしなかった”と答えた者が 10 名で、学習が必ずしも十分に行われていない状況にあった。

授業時間外学習については、授業者自身、「受講学生の自主性、主体性を尊重したい」という気持ちと、「教員から課題を提示しないと授業時間外学習が進まないのではないか」という気持ちの間で、迷いがある所である。そうしたことから、本年度の授業では、教員から課題（小レポート）を提示する場合と学生の自主性に任せる場合をおよそ半々にするという折衷的な方法を採り、授業終了時の授業評価アンケートの項目６として、「授業時間外学習の在り方」を受講者に尋ねた。その選択項目は以下の通りである。

(1) 授業時間外学習は学生の自主性に任せるべきである。

【理由】ａ．教員から課題を与えられなくても、自分で適切に学習をするから
ｂ．課題を課せられるのは、時間的に負担が大きすぎるから
ｃ．その他（自由記述）

(2) 教員から授業時間外学習の課題を出した方がよい。

【理由】 ａ．課題がないと学習をしないから
ｂ．課題がないと何を学習したらよいか分からないから
ｃ．その他（自由記述）

結果は、(1)を選択した者が５名で、理由としては、ａが１名、ｂが３名、ｃが１名で、ｃを選択した 1 名は、「本授業の講義内容から、自然に授業時間外学習をした」と回答していた。一方、(2)を選択した者は 10 名で、理由としては、ａが 4 名、ｂが５名、ｃが１名で、ｃを選択した１名は、「教員から『この点を勉強しなさい』と言ってもらえると安心できるから」と回答していた。

以上の結果から、受講者の 2/3 は、授業時間外学習は教員から課題が出ないと、「自発的にはあまり学習をしない」もしくは「何を学習したらよいか分からない」という状態にあると言える。

この結果は、授業時間外学習について、授業者が授業の回ごとに学習課題を用意する必要性を示しているのであろうか。筆者はそうは考えない。確かに、授業の回ごとに課題を提示すれば受講学生は「授業時間外学習」を行ってくるだろう。しかしそれは、「嫌でもしなければならない強制された学習」であり、「受講生の“主体的な”学習」という授業時間外学習の本来あるべき姿にはなっていないと考える。この点について、今回のアンケート結果で最も気になるのは、「教員から課題を与えられないと何をしてよいか分からない」と回答した学生が受講者の 1/3 に上ることである。こうした学生がより主体的に授業時間外学習を行えるためには、どのような授業の工夫が必要なのか、現時点では、次年度の授業で、次の２つの方法の実施を考えている。

(1) 各回の授業の終わりに、その日の授業内容について、教員の助言のもとに、どのような授業時間外学習が必要か学生が考える時間を設ける。

(2) 教員から課題を提示する場合は、１つの課題ではなく複数の課題を提示し、最も興味がある課題を学生が選択できるようにする。

７．授業の総合的評価と課題

本授業のねらいであったグループによる討議と発表を重ねるアクティブラーニングの授業形態については、受講者全員が「適切」と評価し、自由記述欄でも高評価が得られていて、ねらいを十分に達成できたと言える。実際、授業評価アンケート末尾の自由記述欄でも、複数の受講者が「興味を持って積極的に授業に参加できた」や「後輩にぜひ受講を進めたい授業」と記していて、授業者にとっては嬉しい結果であった。ただし、「グループ討議では、発言をする人が偏りがちで、あまり発言しない人もいた」との指摘には注意する必要があり、アクティブラーニング形式の授業において、全ての受講学生が「アクティブ」となるための一層の工夫が必要である。

さらに「６」で述べたように、授業時間外学習については達成がまだまだ十分とは言えず、学生が授業時間外に積極的に学習を行うためには、どのような課題内容、課題形態、授業方法の工夫が必要なのか、次年度に向けて新たな取り組みを考える必要がある。